



園庭にも蝉の鳴き声が響き渡り夏本番となりました。たくさん遊んで、いっぱい食べて、そしてしっかりと休息を取り入れながら、体の変化に気を付けつつ、暑い夏を元気に過ごしていきたいと思ひます。

青空の下のびのびと過ごしている子ども達は、水にもすっかり慣れ夏ならではのプールや水遊びを思う存分楽しんでいます。水いぼやとびひなどの皮膚トラブル、中耳炎、鼻水などはなるべく早く治療して、毎日元気に水遊びが楽しめるの良いですね。

ご家庭でも規則正しい生活を心掛けて、毎日元気に登園してほしいと思ひます。

<行事予定>

- 3 (月) 遊具点検日
- 7 (金) 調理師健康管理
- 13 (木) } お盆
- 14 (金) }
- 15 (土) }
- 17 (月) 避難訓練・遊具点検日
- 20 (木) 身体測定(赤、白組)
- 21 (金) 身体測定(黄、青、すみれ組)
職員会議
- 28 (金) 誕生会
- 29 (土) 清掃消毒日(青組)

【お泊り保育のお礼】



7月4日、5日に行われました4歳児の合宿では、お家の方と離れて“お泊まり”することにワクワク、ドキドキだった子ども達。この経験を通してひとまわり成長できたように思ひます。

【家庭連絡とお願い】



* 夏は、汗をよくかき衣服を着替える事が多くなります。名前がない衣服や持ち物を時々見かけます。すべての物に**大きく**、**しっかり**記名をして下さい。又、着脱しやすい服装で登園してください。

* 皮膚病（水いぼ等）・しらみなどの発生を予防する為、清潔に心がけて下さい。皮膚病の一種には、手足の傷や虫刺されの後に細菌が入り、水泡が出来たり、赤く腫れて汁が出たり、汁がついて広がる「とびひ」があります。感染力が強いため気がついたら、早めに皮膚科で治療をして下さい。早く回復します。

* 新型コロナウイルスの影響が続く中、この時期に多い感染症や熱中症等にも十分に気を付けましょう。外出を控えて休息を十分取り、子どもに合わせた生活をして下さい。

* 体調がすぐれない、朝から微熱があるなどの場合、園では十分な活動ができません。健康な状態で元気に登園できるようにして下さい。

.....《お盆について》.....

お盆は、一般的に8月13日～15日のところが多く、ご先祖さまの霊をまつり、お迎えして感謝の気持ちを伝える日だと言われています。

◇お供えもの・・・ご先祖さまがお空から来る時の為に、きゅうりで作った馬を、帰るときの為に、なすで作った牛を用意しましょう。

◇盆踊り・・・盆踊りは、ご先祖さまがお空から戻ってきた時に「家族と共に楽しいひとときを過ごせるように」という意味があります。

◇お墓参り・・・ご先祖さまが眠っているお墓周りを綺麗にして、今自分が元気であることに感謝の気持ちを伝えましょう。

* 保育目標 *

『規則正しい生活をしよう』

「早寝 早起き 朝ご飯」で疲れに負けない体を作りましょう。早寝早起きのような規則正しい生活と、朝ご飯をしっかり食べることで、午前中から元気に遊ぶ事ができます。

規則正しい生活は良質な睡眠がとれ、次の日も活動的に遊べます。

しっかり遊ぶ事ができると、心の成長、発達にも良い効果をもたらすことができます。忙しい中、早寝は難しいかと思ひますが、お風呂や食事の時間をやりくりし、21時にはお子さんが眠れるようにしてはいかがでしょうか？



《夏に多い風邪や皮膚疾患》

- ◇手足口病 手と足と口にブツブツができるウイルス性の感染症です。
- ◇ヘルパンギーナ のどにできるぶつぶつがとても痛くて、飲食しづらくなります。高熱になる事も多く数日は休む必要があります。これもウイルスによるものです。
- ◇プール熱 アデノウイルスによる感染症で、咽頭炎と結膜炎がおきます。喉の痛み、高熱、目やにが特徴。感染力が強くと一週間ほどの休養が必要です。症状がなくなってから2日は様子を見ましょう。
- ◇溶連菌感染症 主に発熱と喉の腫れが起きます。また、咳や頭痛、腹痛、イチゴのように舌にブツブツができるイチゴ舌、体に淡い紅斑が出るなどの症状が現れることもあります。
- ◇流行性角結膜炎 (はやり目) 潜伏期間は1～2週間で、急に発症し、結膜の充血やかゆみ、異物感、涙がでる。目やに、まぶたの腫れなどが現れます。感染力が非常に強いのが特徴です。
- ◇とびひ 皮膚の細菌感染です。あせもや虫刺されの所をひっかくと起きやすくなります。抗生物質での治療（内服と外用）が必要です。
- ◇水いぼ ウイルスによる皮膚感染症です。プールで肌を接触させるとうつすこともあります。☆子ども達の健康状態に気を配りながら、楽しく夏を過ごしてください。

《防災訓練》

7月上旬に熊本県を中心に日本各地で集中豪雨が発生し、多くの方々が被害に見舞われました。こども園でも、毎月避難訓練を実施していますが、ご家庭でも火災や地震、豪雨などの自然災害時の避難場所を再度認識する必要があると思ひます。いつどんな時に災害に遭遇するかわからないので、防災マニュアルなどに目を通しておいて下さい。

